

同窓会長挨拶



同窓会長

機械工学科 5期 青木 輝男

—北九州高専 祝 40 才—

私が入学した時は、志井車庫行きのバスが徳力から志井へのでこぼこ道を、左手に射撃場を見ながらゆっくりと走っていた時代でした。先輩達からよく聞いた小倉の大手町にあった？という仮校舎という物を私は知りません。我々5期生の入学で、北九州高専がやっと全学年が揃ったのだと認識したのは、入学後1年が経過して初めての卒業生が社会に出たとわかった時でした。

入学時は、同級生の中に頭の髪にドライヤーをかけた目の鋭い人、先輩の中には髭を生やして煙草を吸っている人、また学校事務職員の中には、ネクタイを締めた何処かの兄ちゃん(いい意味で)の様な人、と全てが別世界との遭遇でした。授業中にも多くの思い出があります。数学では授業中の先生の「落てますよ」で、数人の同輩が留年しました。社会では、「歴史で誰がいつ生れたか？は、問題ではない。今日の野菜がいくらか？が大事」と授業で習ったのですが、試験はやっぱり「日中戦争勃発はxxxx年？」の問題。なつかしい階段教室での音楽の授業中の出来事、先生のオルガンに伴い歌を歌ったのですが、「片手をポケットに入れていた、態度がなっとらん」として大欠点。(本人は足を怪我しており、それを庇うのに手をポケットに入れたとのこ

と。危うく音楽で留年だった??)

我々学生も新人、学校事務員の方および先生方も高専という意味では新人ではなかったかと思われれます。当時は北九州高専に歴史はなく、始まったばかりだったということでしょう。みんなで暗中模索しながら一歩ずつ歩み始めた時期と思います。学生は”やんちゃ”が多く、先生方には”覇気と男気”があったように感じます。

入学と同時に入った高専の寮は、私が現在身に付けている生き方の基本を教わった場所と思っています。学業、技術は学校でその基礎を学んだと思いますが、人間社会を生きるという意味では、上司、部下およびお客さんが取り巻く世界のサラリーマン生活をする上で、話の聴き方、話の仕方、間合いの取り方、宴会の席での対応の仕方等、寮生活時に自然に身についた技術ではなからうかと感じています。同級生の中に前期、後期試験前に寮や下宿に泊まり込んで、寮生の中の”危ない奴”救出作戦を展開した友人がいました。私も私の後輩も、この救出作戦によって大いに助けられました。寮に宿直で泊まれた先生と、授業中では聞けない人間臭い話、クラブ活動の人間関係や同僚の彼女との問題を先輩達からの助言で解決したこと、等々学んだことは数え切れないほど多く、貴重なものでした。高専祭を成功させるために、先輩、同僚、後輩との徹夜作業、応援団結成時の資金不足補填のためのアルバイト等々その時、その場で一生懸命生きていた自分を省みることが出来ます。

さて同窓会ですが、私が6代目の同窓会々長と知りました。初期の頃の同窓会は会則もなく、それこそ”新人”であり、諸先輩のご苦労は計り知れないものだったと推察します。私は、6年間の永きにわたり重職を任せられましたが、実績は何も残せず、ここに紙面をお借りしてお詫び致します。高専で有名なロボットコンテストに数年前から、応援に行かせ

ていただいています。数年前のロボコン第1回戦で、相手校にミスがあり、このままじっとしていれば勝つ状況だったのですが、操縦者の目を見て「やらんか!」と言ってしまいました。結果は、北九州高専のロボットが何かの上に乗ってしまい反則で負けてしまいました。(次の年からは、操縦者には聞こえないところの椅子に座るようにしました)

高専の卒業式に行って驚いたことがあります。今北九州高専には、女子学生が約20%も在籍していると聞きました。TVでよく見る大学卒業式の和服姿の女学生が、北九州高専の卒業式でも多くいました。皆さん凛々しく、清々しくとっても可愛い、いい顔して卒業していきます(男子学生もいい顔して卒業していきます)。卒業式で少し残念に思ったことは、卒業生が校歌も学生会歌も歌わない(歌えない?)ことと、祝賀会の乾杯の前の来賓者の挨拶時に、卒業式に来ている保護者の私語、雑談の多さに驚きました。

北九州高専40才ということから、我々卒業生は5,000~6,000人が世界で活躍していると思われま。私と同様のサラリーマンの方、会社経営者、自営業、その他多くの世界でご活躍していることと確信します。住んでいる世界が違うといっても、北九州高専に籍を置いた経験のある方達は、みんな同じ共通項を記憶し、または経験をお持ちと思います。

母校があるということは、尊い友を得たあの空間がまだあるように思います。これからも毎年、毎年約200人の北九州高専生が世に出ていきます。同窓会としても心からお祝いしたいと思います。世に出て、十数年経って「自分は北九州高専卒だった」と思う時期が必ずあると思います。同窓会は、いつでも、いつまでも皆さんの参加をお待ちします。

本年の学校創立40周年は、陣内校長先生のご理解のもと、同窓会が主催でお祝いをさせていただきました。次回は45周年にお祝いをする計画です。

今後とも同窓会の場で美味しいお酒を飲みながら昔の思い出話を肴に語り合いたいと思います。

最後に皆さんの益々のご活躍、北九州工業高等専門学校および高専同窓会の発展を祈念してご挨拶にかえさせていただきます。

学校長挨拶



校長 陣内 靖介

—創立40周年を記念して—

北九州工業高等専門学校は昭和40(1965)年に設置されて、今年創立40周年を迎えました。

これを祝して、この度同窓会会報「雄志台」の北九州高専40周年記念号が発行される運びになりましたことは誠にめでたく、心からお慶び申し上げます。関係の方々のご努力に敬意を表しますとともに、同窓会並びに同会会員の皆様のご発展を衷心よりお祈りいたします。

機械工学科2学級、電気工学科1学級、定員合計120名で発足した本校は、昭和45(1970)年に化学工学科が、昭和62(1987)年に電子制御工学科が増設され、さらに平成元(1989)年には機械工学科2学級が機械工学科と制御情報工学科に分離改組されて、現行の5学科体制の基礎が整いました。創立以来、平成17年3月末現在までの卒業生は5,423名を数えます。また、平成8年には卒業後2年間の上級課程として生産工学専攻(定員8名)、制御工

学専攻（8名）、化学工学専攻（4名）の3専攻からなる専攻科が設置され、最近数年は定員の2倍を超える学生が入学していて、修了生も231名に達します。

40年の間に、このように多くの卒業生や修了生が優秀な技術者、科学者の卵として輩出され、国内外の様々な分野で高い評価を受けて第一線で活躍されていることは誠に喜ばしい限りです。これもひとえに本校の発展を温かく見守り、ご支援くださった地域の方々はじめ、学生の教育研究や生活指導に情熱を込めて取組まれた教職員の方々、在学中は勉学に、課外活動に打ち込み、卒業後も研鑽を積み続けられた卒業生の方々など、大勢の方々のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

本校の歴史を語るものとしては、これまでに昭和50年に創立10周年を記念して「十年の歩み」が刊行され、平成2年には「北九州高専二十五周年記念誌」が発行されています。各時期の具体的な状況だけでなく、関係各位の情熱やご苦勞の一端を垣間見ることが出来ます。これらの記念誌は共に学校の公的な行事として発行されたもので、特に後者は盛大な記念行事の一環として取組まれ、本校教職員の総力を挙げて創られたと編集後記に記されています。

今回の40周年の記念事業については昨年度の運営委員会で審議した結果、先の25周年記念の際に次は50周年と決定との伝聞もあって、学校の公式行事は特に行わないと決まりました。独法化2年目で、中期計画策定、日本技術者教育認定機構の審査、大学評価・学位授与機構による認定評価の対応等、総動員体制で取組むべき課題の目白押しを控えて、余力に乏しいことも事実でありまして、同窓会報で記念号を発行していただけることは学校としてはありがたく存じます。

25周年以降の本校での主な出来事について簡単にご紹介致しますと、平成8年に高水準の教育研究

を行う専攻科が設置され、翌年12月に専攻科棟（R5（鉄筋5階建）1163m²）が竣工。平成10年4月化学工学科を物質化学工学科に改組し、教員を増強して第4、5学年に応用化学工学コースと生物化学工学コースを設置。高度な研究・実験を推進するための総合研究実験棟（R4 1480m²）が平成12年10月に竣工。同年同月地域産業との研究教育の連携を促進・実施する施設として地域共同テクノセンターを設置し、建物（R2 412m²）は平成14年10月に竣工。平成14年4月電気工学科を実情に即して電気電子工学科に名称変更。同年同月電子計算機室をIT教育総合情報センターに拡充改組。平成15年10月細胞工学センター設置、平成17年4月同センターに高専機構から助教授1名の特別配置・・・等々がありました。

中でも画期的な出来事は平成16年4月1日国立大学と同様に本校も独法化されたことです。全国の国立高専55校が独立行政法人国立高等専門学校機構という一つの組織となり、本校は同機構が設置・運営する国立高等専門学校の一つ、国立北九州工業高等専門学校となりました。

表面上は何の変哲も無いようですが、従来の高専には設置目的が「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」とだけ定められていて、実践的な中堅技術者の育成に注力する空気がありました。平成15年に制定された独立行政法人国立高等専門学校機構法には、「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする」と定められ、業務の範囲も従来の学生の教育指導の他に、「機構以外の者から委託を受け、またはこれと共同して行う研究の実施、その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと」、「学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」が加えられて、国

立大学とほぼ同じになり、高等教育機関の一員としての位置付が明確化されました。法人化の目的は高専の活動の自由度を高めて活性化や個性化を促し、教育研究の充実・高度化、地域社会への貢献を進めることなどにあり、厳しい課題もありますが、千載一遇の好機と捉え、教職員一丸となって本校の充実発展に取り組んで参りたいと思っています。

最後に最近の概況について少し独断と偏見を交えてご紹介いたします。

先ず学生関係では、この数年、卒業生の約半数が企業等に就職し、進学の数強が本校の専攻科に進学するようになりました。専攻科修了生の半数近くは大学院に進学です。学部編入、大学院進学のいずれも高専卒業生の優秀さを実感して熱心に勧誘する大学が増えています。学会での研究発表で大学生を抑えて表彰される5年生、専攻科生も珍しくありません。

一方、少子化のためか本校でも入学志願者の倍率がじりじり下がって今年度は2.1倍にまで低下しました。倍率の低下は入学生の質と意欲の低下に繋がり、教育効果の低下を招く危険性があり、教職員一同、魅力ある学校創りと共に体験入学、公開講座、リーフレットの改善など広報活動も工夫するなどして、倍率向上の努力を鋭意続けています。機会ある折々に皆様方のご助力を賜れば幸甚に存じます。

課外活動は相変わらず活発です。高専体育大会ではバドミントンが昨年、団体で6年連続全国制覇を成し遂げ、今年も同種目の他、5団体が地区優勝して全国大会に臨みます。ロボコンは4年連続全国大会出場、地区大会でも3年連続優勝して抜群の実力を披露、今や「打倒北九州」は九州の多くの校長先生方の合言葉です。恒例の春の体育祭、秋の高専祭も学生会の自主運営に託してからは学生全員率先参加の盛会になりました。体育祭は保護者の要望に応じて昨年から土曜日開催にした所、保護者はじめ

沢山の方々がお見えになり、それに刺激されて学生も奮起・反省し、今年は昨年に増しての大盛会。行動も内容も高専の学生らしい元気と風格を備えた見事なものでした。日頃の学生の生活指導でも、最近は処分件数が嘘のように激減しています。

先生方の教育研究活動も盛んです。日頃の研究実績が認められて科学研究費補助金の採択件数が次第に増え、今年度は15件、合計金額約1500万円が採択。件数、金額とも高専としてはかなりの上位になります。NEDOの大型プロジェクトにも本校の先生主導で2件が採択され、細胞工学センターには約3千万円の高度実践技術教育設備費が高専機構から認められました。九州大学と九州工業大学から博士課程の研究指導教員に併任されている先生もいます。

最近の本校の状況は、一言でいうとこれまでの歴代の校長先生をはじめ教職員の方々や同窓生の方々が智恵を絞り、努力して蒔かれた種子が着々と花を咲かせ、実を結びつつある現われと感謝しています。実際、数多くの素晴らしい教職員と素晴らしい学生達に恵まれて、折々に校長冥利に尽きる喜びを実感させて戴いていると申しても過言ではありません。

独法化後、学校間等の競争も激化させられる風向きの中で、様々な評価が目白押しですし、高専を取り巻く情勢は決して楽観視できるものではありませんが、北九州高専の教職員、学生の素晴らしい情熱と力量からすれば、さしたる障害とは思えません。先にも申しましたようにむしろ好機到来と捉えて、前向きに取り組んで参りたいと思っております。

同窓会ははじめ、関係各位におかれましては今後とも、温かいご理解とご支援を給わりますよう心からお願い申し上げます。